

## 地域情報（県別）

### 【奈良】 病院食の満足度向上を目指し農学部と連携-近畿大学奈良病院に聞く ◆Vol.2

2021年4月23日（金）配信 m3.com編集部

奈良県生駒市の近畿大学奈良病院は、設置者が総合大学であるという特徴を強みとして、療養環境の改善に生かしている。連載2回目は、病院食の満足度向上の取り組みにおける、農学部との連携について紹介する。このほか、地域の中核的な医療機関として力を入れる「断らない病院」の実践や病診連携の推進についても紹介する。（2021年2月15日、4月7日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回は[こちら](#)



病院食の調理に当たる農学部の学生たち（病院提供）

近畿大学奈良病院栄養部では「食事満足度向上プログラム」に取り組んでいる。きっかけは2016年の診療報酬改定。病院食の患者の負担割合が増えた。それまでは1食当たり260円だったが現在は460円。「質の良いものを出したい」「どうしたら質の良いものを出せるか」。プログラムは、知恵を絞る現場の思いから始まった。管理栄養士で栄養部主任（職名は取材当時、現在は同部科長代理）の菅野真美氏は、そう説明する。

#### 一番人気は「近大マンゴー」

献立の見直し、食器の選定などさまざまな検討が行われた。そうした検討の中から生まれた取り組みの一つが農学部との連携。農業生産学科の学生を中心とした学生農業団体「GAVRi（ガブリ）」や大学附属農場から農作物を仕入れ、より新鮮で、また通常は価格面などで取り入れにくい野菜や果物を献立に生かすことが可能になった。

大学が農業・食品関連分野で連携している隣の平群町の農家からも直に仕入れる。地産地消にも貢献している。

連携により仕入れた食材を使った病院食のメニューは、2019年度は22回（農学部のタマネギや附属農場の近大青梅のゼリー、平群町のブドウのデラウェアなど）、2020年度は25回（平群町のイチゴ「古都華」や附属農場のビーツ、農学部のサツマイモなど）あった。



農学部が栽培したひもとうがらしを使った病院食（病院提供）

特に毎月12日は「近大プレートの日」と銘打って、連携食材を使った大皿の料理を提供。特別感を演出して、食事の楽しみが増すよう工夫している。2019年9月のこの日には、農学部から仕入れた奈良の伝統野菜ひもとうがらしのソテーが大皿を飾った。

これまでで最も好評だったのは、和歌山県湯浅町の附属農場の「近大マンゴー」。高級果物として知られるマンゴーの規格外のを安く仕入れることができた。最近では昨年9月に使用した。昼食の一品、ミルクゼリーに添えた。たくさんの人に喜んでもらうことができたという。

#### 患者の食欲を引き出す学生のメッセージカード

農学部との連携のもう一つの形は、食品栄養学科臨床栄養学研究室の学生を中心としたボランティアによる協力。同学科の学生は管理栄養士の資格取得を目指している。連携食材を使った料理を出すときには、産地情報などを書いたメッセージカードを添えていて、うち月3回分のカード作成を学生に頼んでいる。デイルームに掲示する毎月の献立表も事務的にならないよう、イラスト入りのカラフルなものを作ってもらっている。



農学部が作ったカラフルな献立表とメッセージカード

平群町の農家から仕入れたイチゴを提供したときのメッセージカードは「本日は奈良県平群産のいちごである古都華を提供します」と題して、品種の説明や味の特徴をイチゴのかわいらしいイラストを添えて紹介した。

病院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がん患者が多い。抗がん剤治療や放射線治療により、また終末期にあって食欲不振になりやすい。食事に添えたメッセージの産地情報を見て、「食べてみようか」という気持ちになってもらいたい。メッセージが一口につながる、と菅野主任はこれに込めた思いを語る。

#### 病院が希望する食材の安定供給を目指して

学生と共同でレシピを考案したり、学生におやつを調理してもらったりすることもある。2020年12月の小児科病棟のクリスマス会では、トナカイの姿をかたどったケーキを考え、作ってくれた。学生から提案があったレシピに対し、管理栄養士が指導。それが制限のある患者に提供するものであることや、厨房という大きな設備で大量につくるものであることなど、現場で求められる視点から学生にアドバイスをする。

「近大の病院食は楽しい」。2019年9月ごろ、患者の声を聞く意見箱にそんな感想が寄せられた。「食事に楽しみを」がプログラムのテーマの一つ。栄養部のスタッフにとって「うれしい」声だった。食事は、単調になりがちな入院生活を豊かにできる。農学部との連携が大きな役割を果たしている。

プログラムの取り組みも5年を経て、軌道に乗ってきた。今後の目標としては、年間計画を立て、病院が希望する品目を挙げて安定的に供給を受けられるよう提供先に伝えていきたい、と菅野主任は話す。

### 「断らない病院」を日々実践



近畿大学奈良病院の受け付けフロアに立つ病院長の村木正人氏

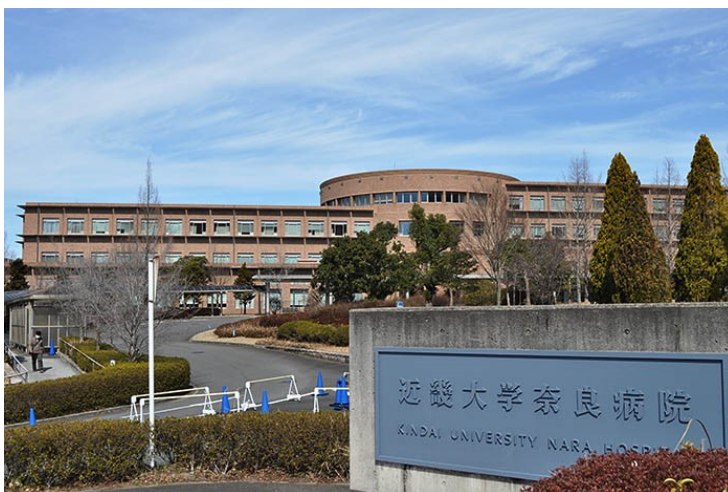
近畿大学奈良病院は、2021年4月1日付で村木正人副病院長が病院長に就任、新しい病院長の下、引き続き「断らない病院」の実践と病診連携の推進に努めるとともに、総合大学の強みを生かした療養環境改善の取り組みを進める。

奈良県は高度医療を提供する急性期病院に対し、「断らない病院」であることを求めている。そうした中で、近大奈良病院は県の二次医療圏の一つ、西和医療圏において中核的な役割を担う。前任の城谷学前病院長は病院のスタッフに向け、地域の病院や開業医からの依頼、救急車の患者を「決して断らないように」と繰り返し要請してきた。

現場にその意識が浸透し、2021年1月は、他の医療機関からの時間外の依頼は100%（43件、時間内は93件）受け入れた。救急車の患者についても、最大限受け入れる態勢は整えており、95%以上は受けているという。

この方針を引き継ぐ村木病院長は「地域住民、周りの医療関係の方に愛され、安心していただくためには、困っている方から依頼があったときはすべて受ける。これが一番重要」と力を込める。

### 情報発信と病診連携の場づくりを大切に



奈良県の西和医療圏において中核的な役割を担う近畿大学奈良病院

こうした患者の受け入れと同時に、病院から地域へのアプローチも図る。地域における病診連携の推進のため大切に行っているのは、情報発信や近隣の開業医や病院との絆。

この絆を強めるため、病診連携の会を開催してきた。例えば、がんをテーマにする場合、がんの手術をする外科の医師、外科が難しい場合なら抗がん剤の治療をする医師、あるいは放射線治療をする医師、場合によっては緩和医療の医師が系統だった最新の知見を紹介する。病院がある西和医療圏を中心に、医師らに集まってもらい講演会や勉強会を開く。コロナ禍の今はウェブを利用する。

村木病院長は「近隣の病院や開業医の先生が困っている症例について、こうしたらどうかと、われわれの専門知識をお伝えし、話し合えるような関係性をつくっていききたい」と目標を定める。それには、城谷前病院長が掲げたフェース・ツー・フェースの関係を念頭に、「ただ資料を渡すのではなく、顔を合わせ向き合って話し、顔見知りになることが大事」と話す。

病院は2020年、受け付けフロアに地域医療連携マップを掲示した。約250の地域の病院や診療所に連携医登録をしてもらっており、地図にその位置を示した。さらに、病院、診療所ごとにちらしを作成、地図下の書類棚から持ち帰れる。ちらしは診療科目や診療時間のほか、院長の顔写真やあいさつの言葉なども添えられ、親しみやすい。

症状の落ち着いた患者に地域の医療機関を紹介するとともに、患者が困ったときにはまた、その医療機関を通じて受け入れる。地域医療連携マップにはそうした連携を強める狙いがある。

### 市民公開講座の充実

地域住民に病気について知ってもらうための活動にも今後さらに力を入れる。例えば、市民公開講座の充実を目指す。扱うテーマは現在、がんやアレルギーなど一部の分野に限られているが、高血圧や糖尿病など、病院のあらゆる診療科の分野で実施できるようにしたいという。2021年4月29日には、隣の市にあるイオンモール大和郡山で、コロナ感染対策をテーマの中心に、地域の医師会と協力して、「第1回メディカルフェア」を計画。買い物がてら耳を傾けてもらえればという。

このほか、情報発信の手段として、広報誌「いこま」（8ページ）も年に3回発行する。病院の取り組みや各診療科の最新情報を掲載している。広報誌は病院の受け付けフロアなどに置くほか、開業医らに送ったりもする。

### 「足りないところ」他学部力を借りて

総合大学の強みを生かした療養環境改善の取り組みが成果を上げている。ホスピタルアートや食事満足度向上プログラムなど、施設のデザインや日々の食事は患者の視覚や味覚、嗅覚にアクセントを与え、患者の治療への意欲を側面から高める。大学に在籍するそうした分野の学生たちの才能を生かせることが、この大学病院の一つの特性。学生にも、不安を抱えた患者にどう接すればよいのか、社会人になる前に経験してもらおうことができる。

村木病院長は、今後考えられる取り組みの例として、理工学部との連携による医療機器の開発を挙げる。自身の専門でもある呼吸器に関わるものとして、ぜんそく患者が使用する薬の吸入器を使いやすく改良したいとの思いがある。「餅は餅屋。いろんな学部の専門性を生かして、われわれに足りないところは力を貸してほしい」と期待する。

村木病院長は就任に当たって「患者さん、地域の人に愛される病院にしたい」と抱負を語る。「大学病院として先端医療の提供は当たり前。医療はいいけど、ぎすぎすしているというのは良くない」と考えるからだ。今も医師や看護師をはじめ職員对患者に対する人当たりは良いと感じているが、さらに接客能力の向上を図るため、専門家による研修会なども考えている。

### ◆村木 正人（むらき・まさと）氏

1987年近畿大学医学部卒業、同年同大学医学部第4内科入局、1993年同大学大学院医学研究科内科学系修了。メイヨー・クリニック（米、ミネソタ州）留学、近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科、橋本市民病院、近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科講師、同大学医学部奈良病院（現同大学奈良病院）呼吸器・アレルギー内科教授、同副病院長を経て、2021年4月病院長。

【取材・文・撮影＝浅野善一】

### → 奈良県に関する他のニュースを見る

[三重県](#)
[滋賀県](#)
[京都府](#)
[大阪府](#)
[兵庫県](#)
[奈良県](#)
[和歌山県](#)

### 奈良県に関連するニュース

新型コロナ 奈良、GOTO食事券発売 「医療崩壊加速」疑問の声  
4月27日

新型コロナ：新型コロナ 新規感染90人、2人死亡 専用病床使用率73% /奈良  
4月26日

新型コロナ：新型コロナ 専用病床、50床確保見込み 県要請受け民間病院など /奈良

4月24日

奈良県で最多の125人感染 2日連続更新 新型コロナ

4月23日

【奈良】病床要請 病院の背中押す手段…改正感染症法 中小 人員に課題

4月22日

記事検索

ニュース・医療維新を検索

